

## 「国土を測る」意義と役割を考える懇話会

－「伝える」から「伝わる」へ－

### <設立趣旨>

国土を適切に管理し保全することは、国家が存立する上で欠くことのできない要素の1つです。また、国土の姿を適切に捉えることができ初めて、様々な国土インフラの整備や、これに根ざした経済活動が可能となります。このため、古来より世界各地で、国土の位置や形状を正しく捉えるための取組が国家事業として行われてきました。

国土の姿を捉えるためには、「国土を測る」こと、つまり「測量」が必要です。測量は現在、社会経済活動の基礎的な情報基盤を整備するために広く実施されており、国や地方公共団体が行う公共事業に限らず、民間開発や個人の資産管理など、様々な場面で行われています。また、例えば測量により作成される地図は、日常生活の中で当たり前のように利用されています。

国土地理院は、我が国で行われる測量が円滑に実施されるよう、技術的な観点を含めた必要な行政に取り組んできました。社会全体で少子高齢化が進む中、測量にたずさわる技術者について、他の技術分野と同様に新たな担い手の不足が懸念されており、その対応が必要となっています。測量技術者不足の背景には、測量の意義や役割が、十分に、また、正しく国民に理解されていないことがあることが指摘されています。このため、いま一度「国土を測る」意義と役割について観点を整理し、これらを広く国民に対して適切に伝える方策を検討することが必要となっています。

こうした点について有識者による議論を行うため、国土地理院では、『「国土を測る」意義と役割を考える懇話会」を開催することとしました。本懇話会における議論や有識者の方々からのご意見を踏まえ、国土地理院の広報活動などの取組を充実させることで、適切な測量行政を推進することを目指しています。また、測量にたずさわる産学官の多くの関係者において測量の役割や課題を共有し、必要な取組を協働して実施することにより、測量技術者の確保を進め、情報基盤の着実な整備が将来にわたって行われる社会を築くことを目指しています。